

表彰対象建築物名称	シャリエ長泉グランマックス WEST 棟			<p>環境配慮の内容とその目的</p> <p>(1) ふじのくに地球温暖化対策実行計画について下記を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■室内環境対策（室温制御）                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・外皮性能は日本住宅性能表示基準「5-1 断熱等性能等級」の等級 4 とした。主な仕様は外壁廻り断熱材厚 10~40mm(部分により異なる)ペアガラスの採用等。</li> </ul> </li> <li>■エネルギー対策（設備システム効率化・効率的運用）                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・各住戸にエネファームを設置し、各エネファーム間で余剰電力を融通しあうシステムを構築した。また MEMS の設置により各住戸のエネルギー利用状況を確認できるシステムを導入した。</li> </ul> </li> </ul> <p>(2) 災害に強い静岡の形成について下記を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■サービス性能対策（耐震・信頼性）                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・耐震性は建築基準法に定められた 25%増の耐震性を有し、日本住宅性能評価の「1-1 耐震等級」の等級 2 とした。</li> <li>・躯体材料の耐用年数は、日本住宅性能法事基準「3-1 劣化対策等級」3 とし、大規模な改修工事を必要とするまでの期間を延長する措置を講じた。</li> <li>・太陽光パネル、蓄電池の設置により、停電時に非常時用共用電力の供給を行う計画とした。</li> </ul> </li> <li>(3) 静岡ユニバーサルデザインの推進について下記を実施した。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>■サービス性能対策（機能性・快適性・空間のゆとり）                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・各住戸に最大 1G のブロードバンドが利用可能な環境とした。</li> <li>・居室の天井高さは 2.5m としゆとりの空間とした。</li> </ul> </li> <li>■室外環境(敷地内)対策（地域性・アメニティへの配慮）                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回対象建物の EAST 棟と別棟の WEST 棟との間に遊歩道を設け、樹木の配置の工夫によりプロムナードを形成した。地域の方も利用可能な緑の空間を設けアメニティへの配慮を行った。</li> </ul> </li> </ul> <p>(4) 緑化及び自然景観の保全・回復について下記を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■敷地外環境対策(温熱環境悪化の改善)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の卓越風を調査し自然風を住戸内に取り入れる工夫をした。玄関ドアを通風換気機能付き玄関扉仕様とし、中間時のエアコンの利用低減を図った。その他、グリーンカーテンフック、開放制限付き窓の設置等、自然エネルギーによる快適さの追求に努めた。</li> </ul> </li> </ul> </li></ul>
建設地	駿東郡長泉町中土狩725-1			
建築主	東レ建設株式会社			
設計者	東レ建設株式会社 東京一級建築士事務所			
延べ面積	9,000.48 m <sup>2</sup>	規模	地上 1 2 階	
構造	RC造			
用途	共同住宅			
CASBEE評価	A	BEE値	2.5	
建築物写真				
建築主として求めた環境配慮に対する総合的なコンセプト	<p>本プロジェクトは国土交通省の平成 26 年度住宅・建築物省 CO2 先導事業の採択を目標とし、コンセプトとして新たなエネルギー融通システム(T-グリッドシステム)の構築を掲げた。各住戸にエネファームを設置し、各エネファーム間での電力融通を行った結果、マンション全体の消費エネルギーを抑える取り組みを行い結果として先導的な省 CO2 技術として採択頂く事ができました。</p>			

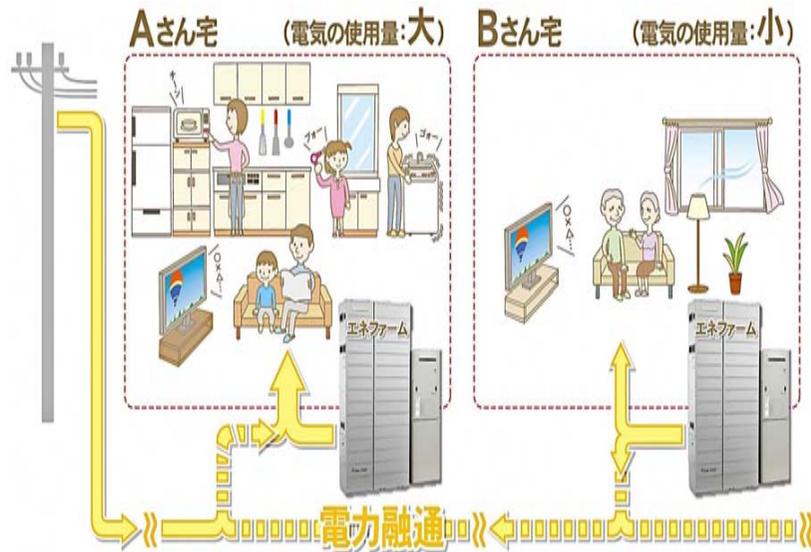
環境配慮の内容とその目的 (補足資料)



全体配置図(EAST 棟+WEST 棟+公園エリア+宅地)

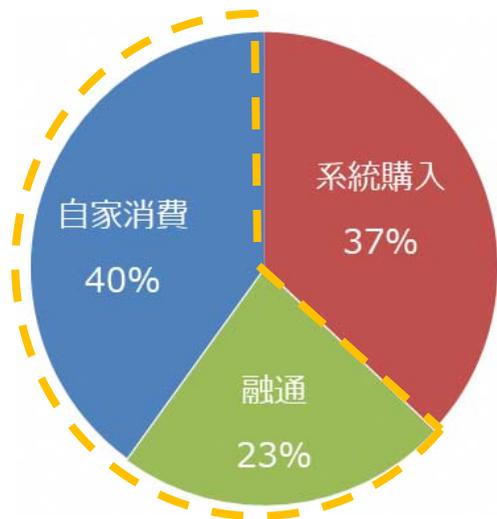


エネファーム(各住戸アルコーブ設置)



エネファーム・電力融通概念図

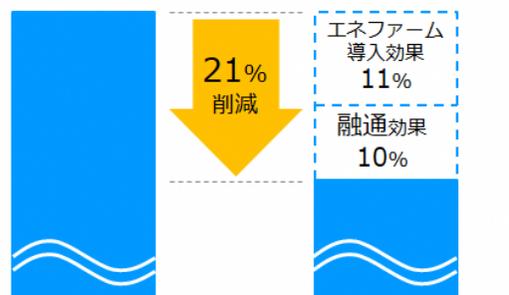
環境配慮の内容とその目的（補足資料）



電力自給率を52%から**63%**に引き上げ

※ 2017年5月～2018年4月までの68戸分のデータより算出

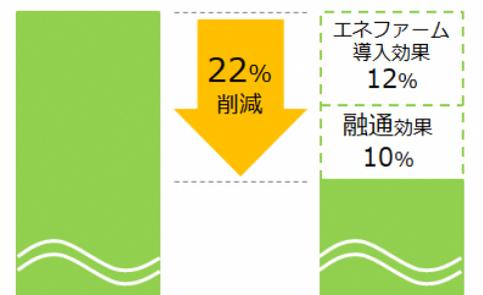
<一次エネルギー消費量>



従来システム  
2,923 [GJ/Y]

T-グリッド  
2,372 [GJ/Y]

<CO<sub>2</sub>排出量>



従来システム  
156 [t-CO<sub>2</sub>/Y]

T-グリッド  
122 [t-CO<sub>2</sub>/Y]

省エネ 21%・省CO<sub>2</sub> 22%を達成

※ 2017年5月～2018年4月までの68戸分のデータより算出（電力負荷：210,682kWh、給湯負荷：717,167MJ）

※ 1次エネルギー換算値：ガス：45MJ/m<sup>3</sup>、電気：9.76MJ/kWh

※ CO<sub>2</sub>原単位：ガス：2.29kg-CO<sub>2</sub>/m<sup>3</sup>、電気：0.512kg-CO<sub>2</sub>/kWh（平成28年度電気事業者排出係数代替値）